

A MISSION TO UNITE FOR

『史上最も偉大な一文』に見る希望
建国250周年を迎えるアメリカ
「独立宣言」は分断の解毒剤となるか？

建国250周年を目前に控えながら、深刻な政治的分断に引き裂かれるアメリカ。本インタビューでは、伝記作家として著名なウォルター・アイザックソンを迎え、その新著『史上最も偉大な一文』に絡めて、独立宣言の核心を成す一文を紐解く。ジェファーソンが書き、フランクリンが推敲した「幸福の追求」という言葉は、なぜ単なる財産権ではなく「アメリカン・ドリーム」の舞台装置となったのか——など、歴史の矛盾を抱えつつも、各世代が向き合うべき「未完の使命」としての独立宣言の今日的な意味に迫る。



番組ホスト

ファリード・ザカリア

インド出身のジャーナリスト、国際問題評論家。イエール大学卒業後、ハーバード大学で博士号を取得。国際政治経済ジャーナル「フォーリン・アフェアーズ」編集長、ニュース週刊誌「ニューズウィーク」の国際版編集長を経て、2008年6月よりCNNで「Fareed Zakaria GPS」の番組ホストを務める。1964年、ムンバイ生まれ。



ゲスト

ウォルター・アイザックソン

デュレーン大学教授。CNNのCEOやタイム誌の編集長、アスペン研究所のCEOを経て、現在はフェロー職を務める。著名人の伝記作家としても活躍。スティーブ・ジョブズ、アルバート・アインシュタイン、ベンジャミン・フランクリン、レオナルド・ダ・ヴィンチなどを取り上げる。1952年、ニューオーリンズ生まれ。



Listening Quiz

62 「自明の真理」は元々「自明」ではなかった？

Fareed Zakaria America is a deeply divided country. Polls show that Democrats and Republicans not only disagree on policy; they each believe that they are operating with a different set of basic facts. It is in this political climate that the United States will celebrate its 250th birthday next year.

In honor of this milestone, the historian and biographer Walter Isaacson has written a book about the most famous sentence from the Declaration of Independence.* It reads: “We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal, that they are endowed by their Creator with certain unalienable Rights, that among these are Life, Liberty, and the pursuit of Happiness.” The book is called *The Greatest Sentence Ever Written*.

Welcome, Walter. I just said the sentence, so what more is there to...for us to discuss?



Walter Isaacson Well, you know, let’s look at the edits of it. It’s wonderful that the first draft is in the basement of the Library of Congress, and Jefferson starts it with, “We hold these truths to be sacred.” And there’s Benjamin Franklin’s black backslashes of a printer, putting in “self-evident”—’cause he had just come back from visiting David Hume,* who talked about “self-evident truths” of logic—saying, “OK, our rights come not from the dogma of religion but from reason.” Then, the sentence goes on: they’re endowed with rights...

poll:

世論調査

Democrat:

民主党員、民主党支持者

Republican:

共和党員、共和党支持者

political climate:

政治情勢

in honor of:

～に敬意を表して、～を祝って

biographer:

伝記作家

read:

～と書いてある

hold A to be B:

AをBとみなす

self-evident:

自明の

endow A with B:

AにBを授ける

one’s Creator:

造物主、創造主、神

unalienable:

= inalienable 〈権利などが〉譲渡できない、奪うことができない、固有の

pursuit:

追求

edit:

①編集、改訂 ②～を編集する、改訂する

draft:

草稿、草案

the Library of Congress:

米国会図書館

sacred:

神聖な、不可侵の

backslash:

バックスラッシュ、右下がりの斜線

printer:

印刷工、印刷業者

dogma:

(絶対的な)教義、信条

reason:

理性

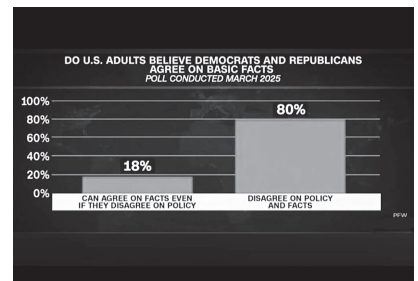
＊お聞き苦しい箇所がありますが、放送時のものです。ご了承ください。

ファリード・ザカリア アメリカは深く分断されている国です。世論調査によると、民主党支持者と共和党支持者は、単に政策に関して意見が異なるだけではなく、基準とする基本的事実が異なっている、とお互いに思っているのです。そんな政治状況の中で、来年（2026年）、アメリカは建国250周年を迎えようとしています。

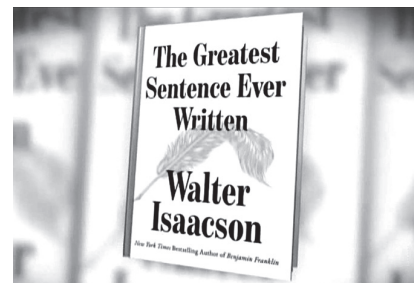
この節目を記念して、歴史家であり伝記作家であるウォルター・アイザックソンは、(米国) 独立宣言の中の最も有名な一文に関する本を執筆しました。その一文にはこうあります。「われわれは、以下に述べる真理は自明のものと考える。すべての人は平等に造られ、創造主によって、譲り渡すことのできない一定の権利を与えられているという真理である。その中には、生命、自由、そして幸福の追求（の権利）も含まれる」。書籍のタイトルは『史上最も偉大な一文』です。

ウォルター、ようこそ。今、その一文を読み上げたので、もうこれ以上話すことはないのでは……？

ウォルター・アイザックソン いや、まあ、まずこの一文の編集過程を見てください。議会図書館の地下に（独立宣言の）初稿が保存されているのは素晴らしいことです。（トーマス・）ジェファソンはその一文の書き出しを「われわれは以下に述べる真理は神聖なものと考える」としました。そこに、ベンジャミン・フランクリンが（元）印刷工ならではの黒い逆斜線を入れ、「（神聖な）の代わりに」「自明の」と書き込みます——というのも、彼はデービッド・ヒュームを訪問して帰ってきたばかりだったからです。ヒュームは論理の「自明の真理」について語っていました——つまり「そう、われわれの権利は宗教の教義からではなく、理性から来るのだ」と言っているのです。そして文はこう続きます。「人々は権利を与えられ……」



世論調査によれば、米国人の8割が、民主党支持者と共和党支持者は、政策のみならず、その土台となる「基本的事実」に関してさえ同意できないと考えている



アイザックソンの新著では、アメリカ独立宣言の一篇をめぐる洞察を通して、分断した現代アメリカの進むべき道が模索される

■ the Declaration of Independence

北米13植民地がグレートブリテン王国からの独立を宣言した文書。1776年7月4日に大陸会議によって採択された。正式な名称はThe unanimous Declaration of the thirteen united States of America。

■ David Hume

スコットランド啓蒙主義を代表する哲学者。経験論を重んじ、因果関係や道徳、宗教に対して懐疑的かつ合理的なアプローチを採った。